

秋田県
退職校長会

会報

題字 秋田師山 書

第 104 号

秋田市手形学園町1-1
秋田大学教育文化学部
同窓会旭水會 内

令和7年3月22日 発行

秋田県退職校長会



変化には変化で

秋田県退職校長会 副会長 佐々木 孝雄

県内においては、ここ一、二年、退職校長会結成五十周年を迎えている地区が多くなってきたようです。結成五十周年を迎えられた地区の会員の皆様、大変おめでとうございます。変化の激しい社会の中で、変わらず会を維持・発展させてきた各地区の皆様、その思いや尽力に敬意を表します。私の所属する横手市でも来年度がその年度にあたり、今まさにどのような形で祝うことができるか検討中のところですが、すでに周年記念を行った地区では盛大に記念式典を行ったり、素晴らしい記念誌を発行したりしているところが多いようですが、様々な取組を参考にして、横手らしい周年記念ができればと思っています。

さて、私が退職校長会に入会してそれほど年数は経過しておらず理解や経験不足の所ではありますが、最近退職校長会について多少懸念を感じていることがあります。ここでは二つ述べます。

一つ目は、退職校長会への入会者数についてです。本県では少子化の影響もあり、多くの地区で統合等で学校数が相当数減ってきております。したがって、それに伴い校長として退職する方も当然減ってきている現状にあります。現在はまだそれほど大きな影響は出ていないわけですが、年数を経るほどその影響は大きくなり、いずれ各地区とも会員数減に直面すると思われます。しかも、現代化した上にコロナ禍の影響もあ

り、人の物事に対する見方・考え方が大きく変化してきており、これまでの退職即入会といった流れにはなりにくい実状になってきています。退職する方が積極的に選んで入会していただけるためにはどういう会であればよいか、皆で知恵を出し改善し、魅力ある退職校長会にして、入会率を高め、今後も会が維持・発展できるようにしていかなければ強く感じています。

二つ目は、退職校長会の存在意義についてであります。秋田県退職校長会の綱領には「教育・文化の振興」や会員の「充実した生き方の実現や福祉の向上」等が掲げられているわけですが、社会の変化に伴い、会の役割も変化に応じたものにする必要がないかということです。私は、学校もコミュニティスクールとして「学校と社会の共存・共生」が期待される時代になったと認識しております。現東洋大学学長の矢口悦子氏は、私の近所のご出身なのですが、昨年、先生から「自分（達）の存在意義・価値は他者との関係の中で生まれる」という旨のお話を伺いました。退職校長会は社会や一般の方からすればどう映るのでしょうか。会員や教育の為だけでなく、もう少し広く、社会との関係性の中でその存在意義を考えてみるということも今後大事な視点になるのではないかと感じております。

最後に、「生き残るのは変化できる者である」という言葉があります。我々も変化していきたいものです。

昨年度から、他地区の退職校長会から、結成五十周年の記念誌が送られてくるようになった。同様に、由利本荘・にかほ退職校長会も、今年度、結成五十周年を迎えた。

十月十二日には鶴舞会館の研修ホールで、結成五十周年記念式典を挙行了。県退職校長会会長伊藤栄二様を始めとする四名のご来賓のご臨席をいただき、また会員数の減少と相俟って、コロナ禍以降、総会等への出席者が減ってきている中、会場いっぱい会員並びに現職の校長先生方のご出席をいただいたことは、望外の喜びであった。

記念事業に向けて準備を進めているとき、入会時のことが思い出された。

校長を務めた責

務上、退職校長会への入会は当然のことと思っていた。退職間近に尊敬する先輩から入会のお誘いがあったが、こちらからお願いするようにして入会。そして、新入会員として緊張し、総会に出席した。

かつて、現職校長会会長等お務めくださった大先輩の先生方が、幹事として総会の会場準備や受付等されていらつしやう。新入会員のこちらとしては恐縮至極である。続く懇親会では、小中高校在学時にお世話になった先生方との再会が嬉しく、感謝しつつも思い

出話に懐かしさがこみ上げる。

入会後は、総会や交流研修会を通し、現職時代、大変お世話になりご指導をいただいた先生、また高校籍の先生方と恐縮しながらも親しく言葉を交わし、改めてご指導いただいたり刺激をいただいたり。緊張しながらも先輩の先生方との世代を超えての親交は、楽しいひとときである。

ところで、私はこうして世代を超えて交わることができるのは、当然のことと思っていた。しかし、五十年前、無から有を生ずる

ひとこと

「結成五十周年」に想う



秋田県退職校長会
常任理事 安倍 武義

ように退職校長会が誕生しなければ、糸の切れた風船のように、このように集うことも影響し合うことも無く、退職後を無為に過ごしていたのかも

しれない。会員や現職の校長先生方とのこころにちの交流は、当然考えられなかったであろう。私はいま退職校長会の名の下に世代を超え、繋がりをもち親交を深める、それが退職後の楽しみの一つとなっている。

五十年前、退職校長会結成への先人の奔走が無ければ、それを継承してこられた先輩方のご尽力が無ければ、こうした親交や教育界への貢献等はいかならないことである。結成五十周年を機に、先人への感謝と、次の世代への継承の決意を新たにしたいところである。

県事務局だより

事務局長 石郷岡 仁 司

今年度実施した主な事業

4・13 令和5年度監査 協働大町ビル

5・11 県理事会・総会 協働大町ビル

6・6～7 全連退理事会・総会

7・6 郡市会長・事務局長合同の会 東京都「きゅりあん」

7・6 郡市会長・事務局長合同の会 協働大町ビル

7・27 全連退会報第232号の発送

10・8～9 県会報103号の発送

第50回東北地区退職校長会協議会

福島大会 「二日開催」 福島市

「ホテル福島グリーンパレス」

10・19 第44回秋田県秋季研修大会

11・1 あきた教育の日 協働大町ビル

各教育関係機関への協力依頼

各小・中学校へ葉書を送付

11・30 全連退会報第233号の発送

1・14 賀詞・寿詞を各郡市事務局へ発送

3・22 全連退会報第234号の発送

県会報104号、全連退年間紀要発送

※全連退からの調査報告・全連退情報等

の各郡市への提供を行った。

※年6回の事務局会を実施した。

※年6回の事務局会を実施した。

郡市だより

Ⅱ 鹿角だよりⅡ

今年度のあゆみ

事務局長 石井 和光

○令和六年度定期総会・懇親会の開催

四月二十五日に、北教育事務所鹿角出張所の山口所長を始め、鹿角市・小坂町の両教育長、現職校長会成田会長を来賓にお迎えし、定期総会・懇親会を開催した。(定期総会参加二十八名、懇親会参加二十五名)

○第四十九回教育懇談会の開催

九月六日に、退職校長会と現職校長会の共催による教育懇談会を開催した。

講演会は、鹿角市立図書館長小林光代様をお迎えし、「つなぐ本との出会いはきつと人との出逢い」10歳から100歳まで楽しく憩う図書館づくりをテーマにご講演いただいた。公募館長として、他県で新図書館建設に携わってこられた経験から、図書館が「本と人をつなぐ場所」だけでなく、「本と人、人と人をつなぐ場所」として居心地のよい図書館づくりをされてきたことがよく分かる講演であった。

懇親会では、講師を囲み、退職者と現職者が交流しながら、時間の経つのも忘れて楽しいひとときを過ごした。(講演会参加三十六名、懇親会参加三十五名)

○理事会の開催(第一回四月、第二回六月、第三回八月、第四回三月)

Ⅱ 大館北秋田だよりⅡ

結成五十周年記念事業

事務局長 佐藤 久生

本会が昭和四十九年に結成してから「平成」「令和」の時代を経て半世紀を迎えた。十一月三十日プラザ杉の子を会場に、記念式典・記念講演を開催した。伊藤栄二県会長をはじめ来賓、会員、六十名の参加を得た。式典では祝辞のほか、今年度めでたく傘寿(八十歳)を迎えられる九名に長寿者祝い品を贈った。

記念講演は、明治三十二年に駅弁構内販売を始めてから百二十五年にわたり、「とり飯弁当」で愛されている地元「花善」の八木橋秀一社長から「地域と共に歩み、そして生きる」と題してお話をいただいた。平成二十五年からは大館市内の全小中学校で鶏めし給食を開始し、平成三十年には海外のフランス、パリへ進出。「花善ならではの『こだわり』」をもち、中学校とのコラボ『ふるさと大館恵み弁当』や冷凍弁当の開発など、さらに「美味い」ものを目指した経営に邁進している。大変有意義な講演内容であった。

その後の祝賀会で、さらに交流を深めた。同日、記念誌を発行した。本会の五十年間を振り返る「五十年の歩み」のほか、「会員の寄稿文」では、三十五名の会員からは「退職後の豊かな生きがいをもとめて」、十一名の新入会員からは「校長職を終えて」思うことをそれぞれ自由に綴っていたいただいた。

Ⅱ 能代市山本郡だよりⅡ

今年度の主な事業を振り返って

事務局長 畠山 員範

今年度は各事業が予定どおりに実施された。

① 総会・懇親会(4月27日開催)

会員と来賓を含め34名が参加し、事業報告や決算、事業計画、予算案、会則の改正等が原案どおり承認された。また懇親会には31名が参加し、会員の懇親を深めることができた。なお今年度の新入会員は3名である。

② 教育懇談会(7月27日開催)

現職校長会との共催で開催された教育懇談会、今年度は趣向を変え、大館市在住のポッブスデュオ「ダックスムーン」を迎えてコンサートを中心とした講演会を実施した。講演では、曲作りにおいて、ふるさとの再発見や地域興しなど、郷土愛を育む活動に取り組んできた様子やその思いに心打たれるものがあった。全10曲ほど披露していただき、大変楽しいひとときを過ごすことができた。

③ 会報等

6月に事務局だよりを、12月に会報56号を発行した。また、正副会長・幹事会を1回、会長・幹事会を4回開催し、本会及び県退職校長会の活動状況の把握に努めた。今後は、正副会長・幹事会、会長・幹事会、世話人会、理事会をそれぞれ1回予定している。

Ⅱ男鹿市だよりⅡ

結成五十周年

事務局長 浅井 繁樹

昭和四十九年に誕生した本会が、令和六年度に結成五十周年を迎えた。会員数五十五名と少人数であり、「身の丈に合った記念事業」を心がけ、次のことを実施した。

一 総会後の研修会を結成五十周年記念研修会として開催

二 五十年の記録を綴った「男鹿市退職校長会のあゆみ」を発刊

三 会報「恩荷」の頁数を増やして発刊

四月二十六日に来賓三名、会員二十四名（会員出席率四十四％）が出席して、総会・結成五十周年研修会・懇親会を開催した。研修会では、大潟村干拓博物館長 船木信一氏が、「男鹿・南秋の生き物最前線」と題して、男鹿の海と大潟村の生き物の変化、洋上風力発電が生き物に与える影響等について、最新の情報を提供してくださった。

今年度、事務局として最も嬉しかったことは、六月に開催したグラウンドゴルフ大会に令和七年二月で百歳の誕生日を迎えた最年長会員が、終始、競技に元気に参加してください、会の目標である「健康長寿」の模範を示してくれたことである。百歳を迎える方が本会に入会されたのは、結成十周年前後であり、感慨深いものがあった。

Ⅱ秋田市だよりⅡ

今年度を振り返って

事務局長 加賀美 俊一

今年度は、四月二十七日に総会を開催した。参加者数は、昨年度より十名ほど増えた。五年ぶりに懇親会を開催したこと、これまでの講演会に代わって、フルートとピアノの演奏会を企画したことが要因と思われる。集う楽しさをアピールしていく必要性を感じた。ともあれ総会にて事業計画や予算等を協議し、承認を得て事業をスタートした。

十一月十六日には、現職・退職校長会教育懇談会を開催した。今回は、グループ協議題を「学校現場の課題と取り組み」と現職から要望のあった「役職定年後の人生設計について」の二本立てで行った。現職も話しやすい雰囲気、グループ協議が活発に行われ、その後の懇親会も盛り上がった。

年二回発行している会報では、会員のセカンドライフの紹介や学校再編で閉校予定の小学校のラストイヤーの取り組み、現職・退職校長会教育懇談会の様子や感想などを掲載している。会員に向けての貴重な情報発信のツールとして位置づけている。

近年、入会者や事業への参加者が少ないのが課題である。即効薬はないかもしれないが、集う楽しさをアピールしながら、少しでも入会者や事業への参加者を増やしていければと思っている。

Ⅱ由利本荘・にかほだよりⅡ

結成五十周年を迎えて

事務局長 高野 睦

結成五十周年を迎えた今年度は、二百八名の会員で本会がスタートし、四月の総会、十月の結成五十周年記念大会を開催することができました（五十周年記念誌も大会時発行）。四月の総会時には、新入会員十一名を迎え、「ジオパークプログラムがめざすもの」と題して鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会事務局次長兼主任研究員の大野希一氏から講演をしていただきました。地域の自然環境の再発見が、歴史や文化を創り上げてきた地域遺産の継承につながることを学びました。

十月に行われた結成五十周年記念大会は、ご来賓と現職校長を迎えて盛大に開催しました。当日は、秋田県退職校長会会長の伊藤栄二氏にご臨席いただき、本会結成五十周年へのご祝辞をいただきました。記念講演は、「世界に挑む 心に刻んだ恩師の一言」と題して探検家の高橋大輔氏よりご講演いただきました。幼少期の夢を原動力に世界を舞台に活躍している高橋氏のお話は、未来を担う子どもたちの教育に携わってきた我々にとって大変魅力的な内容でした。その後の記念祝宴も、ご来賓、現職校長、会員が、教育の未来や展望について語り合い、さらなる発展に向けて研修し合えた有意義な会となりました。

Ⅱ大曲仙北だよりⅡ

この一年を振り返って

事務局長 佐藤 心一

総会は四月二十日グラントパレス川端にて、総会出席者五十四名、祝賀会・歓迎会が四十三名であった。会員講話は藤田直樹氏「日本に届けカピオラニの空」で、在職中にハワイのフルマラソンに参加した時のお話と短歌を交えての味わい深いひとときであった。

同好会では、グラントゴルフが六月九月の二回（どちらも九名参加）、郷土カルチャーが十月に八名参加「ぐるつと県南く成瀬ダムと栗駒の紅葉、稲庭うどんと増田内蔵」で目とお腹と心に栄養をたつぷりと与えた。麻雀（M-CUP）は大曲「大盛館」にて七月十六名、十一月十八名と賑わった。ゴルフ（G-CUP）は大仙市民ゴルフ倶楽部にて五月十七名、十月十六名、スキーはたざわ湖スキー場にて一月十名、二月は岩手方面の宿泊スキーを予定している。

地区持ち回り「研修視察旅行」は、「南外地域の歴史に学ぶ」で十二名の参加、橿岡城趾を訪問し歴史の重みに触れた。八月に現役校長会との「先賢彰徳祭」は玉穂会二十名、現役四十二名と温泉ゆばにて盛大に懇親を深めた。会報は年二回低予算で、好評である。他地区からの広報をLINE登録者六十数名に回覧している。会員の親睦・福利厚生に邁進の玉穂会である。

Ⅱ横手市だよりⅡ

この一年を振り返って

事務局長 佐藤 稔

四月十九日（金）に開催した総会には、三十名の会員に出席していただきました。その後行われた研修会では、株式会社「空」の代表取締役である阿部円香氏から「何もなかった秋田が何でもできる秋田になるまで」というテーマで講話をいただきました。阿部氏のチャレンジ精神と情熱の強さに感銘を受けながら、大変有意義な機会となりました。

本会の二大行事の一つである「教育を語る会」は、これまでコロナ禍により中止を余儀なくされてきましたが、九月二十日（金）に五年ぶりにようやく開催することができました。県退職校長会の伊藤栄二会長様はじめ八名のご来賓をお迎えするとともに、市内の現職校長二十一名と会員三十三名が出席し、盛大に開催することができました。研修会では、株式会社「大納川」の代表取締役の田中文悟氏から「『酒蔵大納川』事業再生に関しての多角的な取り組み事例」と題し、講話をいただきました。田中氏の経営者としての理念や具体の戦略等のお話は、学校経営にも大変参考になり、大きな刺激を受ける機会となりました。引き続き開催した懇親会も大いに盛り上がり、会員同士は勿論のこと、久しぶりに現職校長との親睦を深めることができ、何より嬉しい時間となりました。

Ⅱ湯沢雄勝だよりⅡ

この一年を振り返って

事務局長 滑川 道彦

今年度は新入会員2人を迎えて総会を開催することができた。ここ数年は市役所で開催していたが、今年度はホテルで、歓迎の懇親会も開催することができた。歓迎会で会員の親交を深めたことは会の運営にとって大きな力になっている。また、総会は報告が中心となるが、なかなか事業に参加できない会員にとって有益な情報源となるような場にできたらという思いで、湯沢警察署員による講話を企画した。テーマは「特殊詐欺にだまされないように」だ。お陰様か、今のところ総会参加者で詐欺に遭った人はいない。現職との合同研修会では、公認心理師の奈良恵子さんに講演していただいた。とてもお話の上手な方で、現職の校長にも有益な内容であった。講演会後の懇親会は講師の先生を囲んで大いに盛り上がった。現職と交流できる唯一の場として今後も大事にしていきたい会である。

事務局としては、多くの方に会の事業に参加していただきたいと思っている。県の情報交換会で知り得た他地区の様子を話題にして、新しいことに挑戦したいと思う。会員それぞれに事情があるとは思いますが、本会の活動ができるだけ活性化させていきたいと考えている。

第44回秋季研修大会報告

《研究主題》

退職後の生きがいや在り方をもとめて

令和6年度秋季研修大会が、10月19日に協働大町ビルにおいて会員五十五名の参加を得て開催されました。

冒頭、伊藤栄二会長は、横手市、男鹿市、由利本荘・にかほ、それぞれの退職校長会の研修会に出席した際、特に心に残ったことを紹介されました。

横手市では、廃業目前の大森地区の酒蔵「大納川」を再生に導いた実業家の田中文悟さんの講演があり、酒造り業界では、「和を以て良い酒を醸す（和醸良酒）」という言葉葉を非常に大切にしており、職人たちの和や連携をいかにしてつくっていくかがとても大事であると述べられた。男鹿市では、退職校長会員が自ら学校や企業などを巻き込み、八郎湖の豊かな自然を取り戻すための壮大なプロジェクトを実践しているということに感銘を受けた。結成50周年の記念大会となった由利本荘・にかほでは、探検家の高橋大輔さんの講演がとても印象深く、なかでも「夢だけでは壁は超えられない。志ある夢こそ現実を引き寄せる」という言葉は子どもたちに伝えたい重い言葉であると感じた。



来賓として出席された秋田県教育委員会安田浩幸教育長からは、最近の教育をめぐる状況の中で解決が難しい四つの課題が示されました。

一つ目は不登校の問題である。平成20年の不登校者数は、全県で小学生が一一五人、中学生が六〇八人だった。令和4年度は、小学生が六四四人、中学生が一一三〇三人と、コロナを経て一気に不登校の数が増えてきたと感じる。国もCOOLプランという政策で対策を打っているが、不登校の子どもを減らすというより、どちらかと言えば不登校児童生徒の居場所づくり、学びの支援である。

二つ目は、中学校の部活動の地域移行である。もともとは、中学校の先生方の多忙化の原因の一番が部活動指導であるという調査結果から、せめて土日の部活動だけでも学校から切り離そうと三、四年前からスポーツ庁で始めたものである。ただ、これも多くの課題を抱えている。

三つ目は、教員不足である。今年の本県の教員採用試験の小学校の倍率は1倍だった。平成20年の倍率は、小学校が26・2倍で採用

人数は九人だったが、今は約百人である。中学校は、33・5倍で十一名の採用だったが、今年は3倍である。今まで講師をやっていた方々はもう大体会受かっている状況である。国も県も少しでも志願者の確保を目指し対策を立てているものの、しばらくは教員不足が続くものと思われる。

四つ目は、先生方の働き方改革である。各学校や、小・中・高・特支の校長先生方にも、いろいろやっていただいているが、もう手は尽くされた感がある。県教委が今年一番進めているのが校務のデジタル化である。今年から全県の小・中学校、各市町村共通の統合型校務支援システムを導入しようとしている。何年かかけて全県のシステムを統一したい。また、来年度の高校入試からwebによる出願システムを導入する予定である。

また、研究発表は、由利本荘・にかほの佐々木正先生と、大曲仙北の小西肇先生のお二人からお話をいただきました。佐々木先生からは退職前からの幅広い趣味のお話、小西先生からは閉校した学校をご夫婦で巡り歩いた様子について詳しくご紹介いただきました。お忙しい中、発表の準備をしていただき感謝申し上げます。

そして、研究発表の後は、会員研修として初の試みとなる秋田市立赤れんが郷土館の施設見学を行いました。

施設見学後の懇親会には五十四名が参加し、和気あいあいとした雰囲気の中での温かい交流会となりました。

研究発表1

退職後に楽しむ

由利本荘・にかほ退職校長会

佐々木 正氏

国内外の豊富な写真とともに軽妙な語り口でお話しなされる佐々木先生の発表に会場は引き込まれ、そのスケールの大きい話に時折驚嘆の声があがった。写真とその詳細を紹介できないのが残念であるが、概要をお伝えする。

定年退職して四年目を迎えた。退職後の二年間は、初任研統括指導教員や臨時講師をしたが、その後は完全にフリーとなった。

さて、今日は教育とは全く関係なく、これまでどんなことを趣味としてきて、今どんな風に楽しんでいるかをお話ししたい。

最初の趣味は登山である。大学時代も少し登っていたが、新卒で百宅小に赴任して間もなく本荘山の会に入り本格的に登山を始めた。25歳の時、知床の羅臼岳から硫黄山まで縦走した。当時は本当に山を楽しんでいたが、次第に様々な家庭の事情から山



に行く回数が減り、10年ほどで山の会を退会して登山をやめた。

そのころ出会ったのがカヌーである。仲間と本荘由利カヌークラブを作って、いろいろな人と川下りをして遊んできた。主なフィールドは子吉川の矢島付近であるが、長良川などの県外の川にも遠征した。カヌーは今でも続けているが、乗艇回数は激減し、年に数回だけとなっている。ただ、新山小やアクアパルのカヌー教室のお手伝いをしている。

次に始めたのは乗馬である。「由利高原ホースパーク」の会員になって乗馬を習った。ホースパークから由利原のペンションまで乗馬トレッキングをしたり、北海道に乗馬に出かけたり、砂浜で馬を走らせたことのある。しかし、5年ほどで退会した。

その次はスキューバダイビングである。初めての海外旅行だったパラオで体験ダイビングをしたらはまってしまい、その後夫婦でライセンスを取った。今は年に数回一人で、主に石垣島に潜りに行っている。昨年の1月末から2月にはモルディブで潜ってきた。

そして、今一番力を入れているのが登山である。54歳の時に赴任した上郷小での全校鳥海登山をきっかけに、約20年ぶりに登山を再開した。最初は年に数回だったが、年々回数が増え、退職後は年間山行日数が40日ほどになっている。ここ数年は日本アルプスや八ヶ岳、富士山などに登った。

そのほかに、一昨年度からは亡くなった義父から受け継いだ2.5アールほどある畑の半分

ほどを使って、トウモロコシ、枝豆、サツマイモ、インゲン、落花生、にんじん、キャベツなどを作付けし楽しんでいる。

ここからは、昨年出かけた最高到達点4130mのアンナプルナトレッキングの様子を紹介する。このトレッキングは私にとつて初めての海外トレッキングであったが、思いがけず二男から誘いがあつて行くことになり、私と二男、そして山仲間のS氏の三人で行った。

日本から出発したのが4月22日で帰国が5月7日、16日間の旅だった。

今回のトレッキングのコースは、標高1051mのナヤプルを出発し、まずヒマラヤの展望台と言われる標高3210mのプーニヒルを目指した。その後、チョムロンという割と大きな町を通って、最終目的地である標高4130mのアンナプルナベースキャンプに到着、ネパールの地酒ロキシーで乾杯した。

帰りはチョムロンからは往路とは違う道を歩いてナヤプルに戻った。ヤマレコという登山アプリのデータでは総歩行距離115km、累積登り標高16251mとなっていた。

終わりになるが、少なくともあと数年は近場だけでなく北アルプスや南アルプスの山にも登りたいと思っている。今年は間もなく10月31日から18日間のエベレスト街道トレッキングに行ってくる。高山病が心配だが、健康管理に十分気をつけて行ってきた。また、畑の方も楽しみながらやっていきたい。

研究発表2

あの校舎はいま、そして私たち

大曲仙北退職校長会

小西 肇氏

冒頭で、来年3月に閉校となる白岩小学校の記事と写真が掲載された地方新聞を紹介なさった後、小西先生が奥様と一緒に閉校となった校舎を巡り歩いて感じたことや調査したことなどを話された。その概要をお伝えする。

現在は退職して6年になる。退職4年目の春に、妻と一緒に前年に閉校となった中川小学校を訪ねたことをきっかけに、閉校となった校舎が今どのようなになっているのか知りたいと思い、二人で巡ってみた。対象は、20年前の平成13年と令和4年を区切りとして、その間に閉校と



なり、今もその場所に校舎はあるが廃校となった小学校21校、中学校5校の計26校である。

Q1 皆さんが勤務された学校は、まだ全部あるか？

※私は：・豊岡小学校×↓荒川小学校×↓六郷東根小学校×↓大曲小学校○↓高梨(南)小学校○↓大曲小学校↓藤木小学校○↓南外

小学校○↓協和小学校○：・5—8

Q2 秋田県の人口は令和6年7月現在90万人を切ったが、平成13年から令和4年までの20年間で、大曲仙北(大仙市・仙北市・美郷町)の児童・生徒数は何人減ったか？

A2 平成13年には、12404人だったが、令和4年には、7405人となったので、約5千人の減である。

Q3 平成13年から令和4年までで、大曲仙北の小・中学校は何校減ったか？

A3 平成13年度の大曲仙北の小・中学校数は、小学校49校、中学校21校の合計70校であった。それが、20年たった令和4年になると、小学校31校と中学校9校が閉校となった。新創立校は、小学校11校、中学校4校である。70校から45校となったので、25校の減である。地域別に、新創立校と廃校についてももう少し詳しく見てみる。

大仙市で統合された校数が一番多いのは協和小学校で、六つの学校(荒川・稲沢・峰吉川・船岡・淀川・小種)が合わさり、一つとなった。

美郷町では、旧仙南中学校の校舎が内部改築により、新創立校の仙南小学校の校舎として使われている。

さて、廃校舎のその後について、私個人が目測で次の4項目に分類した。

1 新しい施設が建ったり、新しい団体・会社が利用したりしている：・13校

【例】仙北市の支所(旧田沢小)・宿泊施設(旧仙南東小)・大仙市のアーカイブス(双葉小跡)・麹菌研究開発施設である今野バイオイ

ンキューションセンター(旧大沢郷小)。

2 校舎の一部を新しい団体・会社が利用している：・4校

【例】農事法人たねつこの野菜加工センター(旧西仙北西中の校舎の一部)。

3 体育館のみを地域に開放している：・6校
【例】主に大曲のマーチングチームZIPの練習(旧北神小)。

4 全く利用されている形跡がない：・3校
では、廃校舎を巡って考えたことをまとめる。まず、閉校前には異様な盛り上がりがある。白岩小学校が今そうであるように、とにかく思い出作りで、次の年以降のことはあまり考えない。私は、「閉校妄想」と呼んでいる。

次に、いろいろな疑問が浮かぶ。①永年保存資料の行方。統合校の金庫に保存されるわけだが、大仙市であれば、アーカイブスにまとめていた方が安全ではないか。②タイムカプセルはどうなるのか。③廃校舎の校旗はどこに行くのか。④敷地、校舎の所有権は？

これから閉校になる校舎やすでに廃校となった校舎の10年後を考えると心配である。例えば、「旧○○校舎一斉お片付け日、ボランティア募集」みたいにしてはどうだろうか。

最後に、退職校長会は、閉校(退職後も再任用)と廃校(退職し自由人)の両者を含めた交流組織と考える。そして、大曲仙北退職校長会「玉穂会」は、「会の組織化と活動の周知」及び「かたぐるしさを無くす意識改革」をモットーに活動を展開している。

会員研修の概要

今年度の会員研修は、全体会場近くの秋田市立赤れんが郷土館の施設見学を実施しました。郷土館は徒歩で2分余りの所に立地し、一時間ほどの研修となりました。全体を3グループに分け、ボランティアの解説をお願いし、質問も受けながらの見学となりました。赤れんが郷土館は、旧秋田銀行本店である「赤れんが館」と、併設施設として「関谷四郎記念室」「勝平得之記念館」からなります。勝平得之記念館は、管理棟を兼ねた新館にあり、この時は生誕百二十周年特別企画展を開催中で、大変貴重な機会となりました。参加者からは、「このような研修はとても新鮮で、郡市の研修会にも取り入れたい。」とか、「秋田にいながら初めて入館した。とても価値ある建物であることを改めて知ることができた。」また、「勝平得之については、作品を目にしたことはあったが、さらに制作方法や作品、人物に詳しく知ることができたし、ふだんは見るができない『版木』を間近で見ることができて大変良かった。」などの感想をいただきました。

本格的な煉瓦造洋風建築「赤れんが館」

旧秋田銀行本店本館として、明治45年に竣工した洋風建築様式を取り入れた建物です。平成6年に国指定の重要文化財に指定されています。同じ煉瓦造りの重要文化財として、東北地方では、盛岡市の旧岩手銀行赤レンガ館と、山形市にある文翔館、北秋田市の阿仁

異人館・伝承館などが有名です。建物の特徴としては「端正明快」「実用重視」をコンセプトに、赤煉瓦と白タイルの外観のコントラストと、内部装飾の豪華さと、大理石をふんだんに使った重厚さは特に目を引きま

す。建てられている場所は、秋田市中心部の大町で、江戸時代の久保田城下では外町と呼ばれたところです。外町は商業や諸工業が発達した町人の町で明治になっても秋田県の経済の中心でした。建物に面した赤れんが通りは江戸時代の羽州街道で、敷地の一角に秋田県里程元標があり、秋田県内や近隣諸県の交通網の起点となっています。南に向かって進むと刈穂橋のたもとで酒田街道（羽州浜街道）が西に向かって延び、近くには一昨年開館した「旧松倉家住宅」があります。



営業室の大空間

営業室の中央には、二枚の木製の棟札があります。建物とともに重要文化財に指定されています。昭和56年から行われた大規模修復工事の際に、屋根裏から見つかったものです。棟札の裏面には、当時の関係者の氏名が記されており、大変貴重なものであることがわかりました。銀行関係者として二代目辻兵吉や、第十三代池田家当主の池田文太郎、鷹巢の豪農河田與惣左衛門など当時の秋田県の有力者の名前とともに、外装を監修した秋田県派遣技師・山口直昭、内装を監修した東京星野工業所長・星野男三郎の名前も記されているほか、直接工事に携わった大工の棟梁の名前もあり興味深いものとなっています。

建物の70箇所程ある窓には、鉄製のシャッターがあります。竣工時からそのまま残っている貴重なものです。その大半を毎朝職員が手動で開けます。シャッターは主に火災の延焼を防ぐことを目的としています。また、工期の約半分を土台づくりに費やしました。何本もの松の生丸太を杭として打ち込み、栗石やコンクリートで固めました。土台は地元の男鹿石が使われています。さらに煉瓦を積む際には、縦横に鉄製の板や棒で補強を加えるなど地震に備えた工夫がなされていて、昭和14年の男鹿地震、58年の日本海中部地震、東日本大震災でも、被害はありませんでした。このように建設にあたっては防火・防災を強く意識していました。その点でも学ぶべきことの多い建物となっています。

秋田の創作版画家「勝平得之」

勝平得之は、秋田市大町六丁目（旧鉄砲町）に明治37年に生まれ、昨年が生誕百二十周年でした。家業は紙漉き屋を営んでおり、年少時から家業を手伝っており、幼い時から絵を描くことが好きで、小学校では一目置かれる存在でした。本名は徳治と言います。旭南尋常小学校から中通尋常高等小学校高等科に進み、卒業後は家業を手伝ったり、上京して左官の仕事をしていました。版画を制作するようになったのは二十歳の頃で、竹久夢二の絵や浮世絵に影響を受けています。

最初は、墨摺り木版画で、秋田魁新報に投稿作品がカットとして掲載されていました。その後、広重や写楽などの浮世絵に魅せられ、



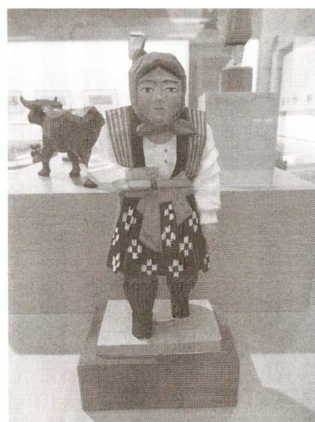
勝平得之記念館にて

本格的に多色刷版画に挑戦します。そして二十四歳の時、この頃の美術思潮でもあった、自分で図案を描き（自画）、自分で彫り（自刻）、自分で摺る（自摺）という「創作版画」の考えのもと、独自の色彩版画の技法を探り、その際に「之を得たり」と、以後画号を「得之」と定め活動を始めます。そして二十五歳の時に、第9回日本創作版画協会展に出品した「外濠夜景」と「八橋街道」が入選し、版画家としての道を歩み始めます。

その後、多くの作品を制作しますが、得之は終生秋田を離れることなく、秋田の人々の暮らしや風俗、祭り、風景や家屋、農作業の様子などを丹念に版画にしていきました。初期の作品は、秋田市の千秋公園や近郊の風景などが中心でしたが、徐々に全国各地にスケッチに出かけ、版画の題材も広がっていきます。今回展示された作品では、小豆沢大日堂の「飴売り」、阿仁の「番楽」、北浦の「かまど」、五城目町の「いろり」、大曲角間川の「鹿島流し」、神代村の「みづき（正月餅）」、横手の「あねこ（首人形売り）」、湯沢の「犬ッコ市」など、絵はがきの作品では、「なまはげ」「たけうち」「かまくら」「西馬音内の盆踊り」、「老犬神社えんぎ」がありました。今回は展示されませんでしたが、由利本荘では「新山裸参り」、能代では「能代の七夕」などの作品があります。

得之の作品の中でも代表的な作品として、四季を通じて農作業の様子を描いた「米作四題（耕土【春】、田植【夏】、刈りあげ【秋】、

堆肥運び【冬】）」と「花四題（ツバキ【春】、ハス【夏】、菊【秋】、なんてん【冬】）」があげられます。今回は版画の他に、米作四題の刈りあげの版木6枚が展示されました。それぞれの表裏に版を起こし、合計十二色で摺ることがわかる貴重なものでした。それぞれには制作年月日や、摺りの順番が刻まれ、得之の几帳面さが見て取れました。その他、「雪の街」と「番楽」、「収穫」の版木が公開されました。



秋田風俗人形
24歳の頃から十年ほど制作していました。人形はともてでも人気で、得之の生活を支えました。

得之の作品には、ふるさとを愛する心が溢れ、秋田の人々に対する温かいまなざしが見て取れます。また、細かな観察で色彩豊かに表現された作品は、カメラなどが普及していなかった昔の様子を視覚的に記録した民俗資料としての価値があります。勝平版画は、子どもたちや年配者まで幅広く愛されています。勝平の作品を見るために遠方より見に来る人や、最近では、外国からの来館者にも人気となっています。

第50回 東北地区退職校長会協議会
福島大会報告(概要)

十月八、九日に福島市に於いて開催された。今回は二日間日程で、二日目に東日本大震災からの復興の現状を視察する研修が実施された。伊藤会長、米澤副会長、大山常任理事、石郷岡事務局長の四名が出席した。

大会では「充実した生き方や地域の教育・文化の向上に資する活動はどうあればよいか」という協議題のもと、話し合いが進められた。また、今後の東北大会の持ち方について宮城県から3つの提案があり了承された。

- ① 日程は従来通り一日開催とし、次の日の朝食後の解散とすること。
- ② 発表を3県から2県にし、山形大会から実施すること。
- ③ 情報交換の時間を新たに設けること。

講話では、全連退会長田中昭光氏が、「学校が抱える課題解決」をテーマに、現在の教育課題、特に「教員の成り手不足」「教員の資質向上」「働き方改革」を取り上げ、解決のための要望をまとめ、文科省に提出してきた旨の話があった。その後、宮城、山形、福島の三県より発表があった。

会の最後に、次年度開催県の山形県より、令和七年十月九日(木)に山形市山形国際ホテルで開催する予定であること。参加費の値上げや、情報交換の時間をどのように組むか、現在検討中であることの説明があった。

会員のご逝去(敬称略) 心からご冥福をお祈りいたします。(103号以降)

氏名	年月日	住所	氏名	年月日	住所
阿部 毅	6・5・28	鹿角市花輪	佐々木敏夫	4・12・14	にかほ市象潟町
小林 健夫	6・8・4	鹿角市花輪	小林 和雄	6・6・30	由利本荘市大鍬町
杉江 清一	6・8・19	鹿角市花輪	(従六位瑞宝双光章)		
川島 康正	6・10・26	鹿角市十和田錦木	中嶋 昭	6・8・25	由利本荘市表尾崎
細田松太郎	6・7・3	北秋田市米内沢	(従六位瑞宝双光章)		
片岡 春雄	6・8・28	大館市岩瀬	藤井 淳一	6・10・22	由利本荘市西梵天
武石 美作	6・11・18	北秋田市川井	(従六位瑞宝双光章)		
水野 哲哉	6・11・26	大館市比内町	齋藤松一郎	6・12・11	にかほ市平沢
櫻田助十郎	7・1・11	北秋田市根田	(正六位瑞宝双光章)		
出川長五郎	7・1・24	北秋田市綴子	加藤 政雄	6・6・12	大仙市大曲
近藤 敏雄	6・6・14	能代市落合	佐藤 重治	6・8・1	仙北市角館町
工藤善一郎	6・6・23	八峰町八森	渋谷 道夫	6・8・10	美郷町金沢
鈴木 敏重	6・8・13	能代市鹹渚	長澤 昭司	6・9・22	美郷町六郷
斉藤 強	6・9・8	能代市末広町	中村 六郎	6・10・2	仙北市角館町
田中 和郎	6・12・25	能代市二ツ井町	照井 幸治	6・6・26	横手市下八丁
松橋 英二	7・1・1	能代市宇鳥小屋	佐藤 幸助	6・9・30	横手市駅南
石岡 城夫	7・1・19	能代市通町	畠山 誠	7・1・6	横手市金沢
村上 弘	6・11	秋田市下新城	阿部 勇吉	7・2・5	横手市十文字町
齊藤 俊雄	6・12・25	秋田市南通	佐々木継雄	6・7・24	横手市十文字町
田村 幹郎	7・1・5	秋田市雄和	北畠 正久	6・7・28	羽後町飯沢
瓜生 俊子	7・1・14	秋田市手形	土田治兵衛	6・9・16	湯沢市清水町
(従六位瑞宝双光章)			築瀬富美雄	7・1・23	湯沢市小野
松田 行正	7・3・3	秋田市飯島			

会員寄稿

じわり生きがい

このひととき

マイ・アイテム



鹿角

田中一良

退職後は、学生時代に登った山の縦走に取り組むつもりで、五十歳を過ぎた頃から日帰り登山を行い、山のアイテムも少しずつ揃えた。さあ、いよいよと思った矢先、不注意により大腿骨頭置換術を受ける羽目になった。

リハビリに励んでいたら、「やり過ぎはダメですよ。」担当ドクターから釘を刺された。退院後の通院の際にも、「人工関節が保ちませんから、散歩程度にして運動は控えてください。」とのこと。

一年が経過し、何とか普通に歩けるようになったが体が重い。体重増加に加えて、それ以上に気分が重い。そこで、ドクターのアドバイスで「健康維持のために、低山の山歩きは可である。」と自分なりに解釈を改めた。

転倒防止のためにトレッキングポールを必ず使用するようになったが、車やゴンドラを利用し、秋田駒ヶ岳のコマクサも森吉山の錦秋も変わらずに満喫できている。

一方、変わったのが登山用のアイテムだ。一つ目は、デジカメの復活である。スマホは手袋を外し両手で操作するが、デジカメは片手でそのままシャッターが切れるので断然楽である。二つ目は、紙地図の復活である。アプリ地図を使っていたが、ルートを探す必要もないので、紙の地図で十分である。また、スマホのコンパスより、昔から馴染んだオイルコンパスの方がしっくりくる。

ちなみにYAMAPアプリでは、歩いた軌跡等が記録されるので、これは変わらず使用している。登山時の消費カロリーも表示されるのだが、下山後に飲むビールの総カロリーは、山歩きでの消費カロリーを大きく超えてしまう。この点も、以前と全く変わっていない。

(令和四年三月退職)

野球漬けの少年時代を振り返って…



大館北秋田

山本英幸

幼い頃、家の前に大きな跨線橋が完成しました。私は、毎日その脚に向かってボールを投げては跳ね返ってくるのをキャッチする練習を繰り返していました。今の物とは比べられないほどゴワゴワしたグローブは私の宝物でした。六年生の時に初めて大会に参加しま

したが、今のようないスポーツもありませんでしたので、急拵えのチームでした。しかも学校のトレシャツに手書きの背番号という格好で相手チームにもやじられる有様でした。それが思いがけず予選大会を次々と勝ち進み、見事全県大会出場となりました。初めて試合用のユニフォームを作ってもらった時の喜びは格別でした。そんな野球漬けの少年時代を過ぎましたが、次第に「先生になって監督をやりたい。」という夢を持つようになりました。その願いを叶えたのは採用二年目。それ以来、母校の中学校を初めて十数年にわたって生徒たちと共にボールを追ひ、汗を流しました。楽しかったことよりも苦しかったり、悔しかったりという思い出が多かったように思いますが、今でもその頃の生徒たちや保護者と交流があることを考えると何物にも代えがたい貴重な経験であり、財産となったことは確かです。

今年で退職して三年目となりました。縁あって中学校部活動の地域移行(展開)の手伝いをしています。生徒数の減少により今の中学生の課外活動の環境は必ずしも彼らや保護者が望むようなものとはなっていないように思います。その改善にはまだ多くの時間と努力を要すると感じていますが、その良さを肌身で感じてきた者として、わずかでもその手伝いができればと考えているところです。

(令和四年三月退職)

部活動指導楽しんでます



能代市山本郡

川尻茂樹

教職を退職し8年になりました。退職時は特に何をするという予定がなかったのですが、八峰町の教育長として5年間教育行政に携わる機会を得て、私なりに町のお役に立てるよう頑張りと、忙しくしていました。その職が終わり、ゆつくり過ごす日々を送っていました。が、たまたま中学校のソフトテニス大会を観戦した際に、教諭時代13年間情熱を傾けたソフトテニスの指導をしてみたいと思いました。

そこで、依頼もされていないのに地元中学校の女子テニス部の監督にお願いし、校長先生にお願いし、外部コーチとしてテニスコートに立ちました。しかしながら、寄る年波には勝てないもので、ボールはよく見えない、足が追いつかない、肘や肩が痛くなるなど、若いときのように生徒と一緒にプレー出来ないことを悟りました。そこで、生徒には「地元のおじいさんが昔の経験で得た、基本的な技術や心構えを教える、口だけコーチだけでなく、みんながテニスを楽しめるよう頑張つて教えるから」と前置きして、指導しています。

週に3、4日、主に放課後の時間帯で、始めて約1年がたちました。現役時代はライバル校に勝ちたいと必死で指導したものです

が、今は生徒が部活動として選んだソフトテニスを楽しんでほしいと思いい指導しています。生徒たちは入部時全員が初心者で、なかなかボールを打てず空振りしていたのに、それなりに上達してきた姿を見て、次はどう指導しようと考えてるのも楽しみです。これからのくらい出来るか分かりませんが、自分の体力の限界が来るか、必要がないと言われるまで、頑張つてみたいです。

(平成二十九年三月退職)

健康第一



男鹿市

畠山勇市

健康維持のため、朝晩犬の散歩をしたり、ゴルフをしたりしている。また、食生活にも気を使っている。

犬の散歩の時には、ごみ拾いもついで行っている。きつかけは、飼っている犬が散歩中に落ちているティッシュペーパーやマスクを食べてしまうということであった。特に不織布マスクは消化されず、吐き出すまで数日を要し命にも関わる危険もある。約一時間の散歩コースは、今ではごみがほとんど落ちていないきれいなものになった。少しは、環境美化に貢献しているかな？

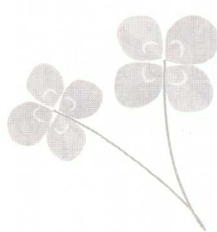
ゴルフでは、なんと昨年の五月に生涯初の

ホールインワンを男鹿カントリークラブ4番ホールで達成した。ピンに直接当たり、ものすごい衝撃音が聞こえ、カップにボールが消えた。秋にはホールインワン記念コンペを開催し、仲間と喜びを分かち合い、夜には美酒に酔いしれた。今後の目標は、楽しくゴルフをすることはもちろんだが、二度目のホールインワン、アルバトロス、エイジシュートである。

退職して四年。一日の生活の中で大きな比重を占めているのが家族の夕食作りである。メニューを考えて午前中に買い物を済ませ、夕方近くになると取り掛かり始める。健康のために、栄養のバランスを考え、塩分は控えめにしている。お世辞でも「うまい」「味付けがいいね」などと言ってもらった時は、うれしいものである。

体の健康は、食べることから始まる。これからも当たり前だけど、適度な運動とバランスのとれた食生活を心がけて、できる限り健康年齢を延ばしていきたい。

(令和三年三月退職)



そういえば……



秋田市

高野 誠一郎

セカンドライフの所感などを自由に執筆することを依頼されたことで、「そういえば、第二の人生だったのだ」と感じるような日々を過ごさせていただいています。朝、同じように家を出て、幼い子どもたちと週五日間過ごし、いろいろな行事や長期休業がある生活をしていると、退職前と何も変わらないような気がしてきます。

そういえば、昨年の夏休みにコロナ禍後、初の自動車旅行をすることができました。三泊四日、信州の温泉地を巡り、地元の美味しい酒と肴を味わいながら、往復約千二百キロをドライブしてきました。ロング・ドライブのために所有している車の燃費はリッター約二十三キロを記録し、温泉と車好きの私としては大満足の旅となりました。ただ、これもコロナ禍前の現職時からの楽しみだったといえます。

六十五歳、あるいは七十歳、将来的には七十五歳まで働くことが求められる時代です。社会や私自身の経済状況から考えてみても、まだまだ、完全なセカンドライフとはならないようです。私にとっては、サードライフがこれまでいわれてきた、セカンドライフなのではないかと考える現在です。

サードライフでは自動車旅行とサーキット走行を思いっきり楽しむ予定です。七十歳まで、あと七年がんばれるかなと思いつながら、「終の車を何にしようかな」、「八十歳を過ぎてもサーキット走行ができたらいいな」と密かに想像してにんまりしている自分がいま。そのためにも、夫婦ともに健康でいられるようにセカンドライフを過ごしていきたいと思っています。「健康第一」。

(令和四年三月退職)

働くことと社会貢献



由利本荘・にかほ

畠山 修

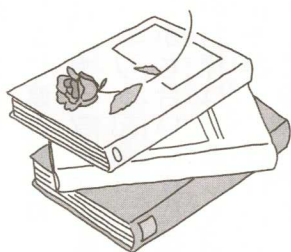
教職を退職し、一年目初任者研修指導員、二年目特別支援学級担任、三・四年目本荘公園修身館指導員として勤めてきた。五年目以降はNPO法人のB型就労支援の障がい者施設で三年間の勤務となっている。施設では障がい者の職業指導をしたり農作物を共に育て収穫・販売したりしている。障がい者が生き生き働くことを支援することができ、楽しく過すことができるように感じる。

また、教職の経験を生かし社会貢献をしたと思う、頼まれた役は引き受けてきている。西目潟端町内五百世帯の副会長を六年務め、毎月の例会や行事に参加したり、町内の神社

の代表となり地域の会合に出席したりしている。その他、西目地域のスポ少の支部長を務め、それに付随して由利本荘市スポ少の副会長、公民館審議委員、学校運営協議会会長なども務めた。現在は少しずつ西目退職校長会の後輩に仕事を譲り、負担過剰にならないようにしている。この他に本荘由利の由利耕心大学の幹事も務め月一回の大学講座の司会進行に当たっている。今年は西目退職校長会の区長も務めている。ややハードな面もあるが、現在勤務のNPO法人の理事長や職員の理解を得て役割を果たしているところである。

働いたり地域のための役割を無理なく果たしたりすることで、自分自身の健康維持と生活の充実を感じる。仕事の合間には全国をドライブして見聞を広げたり楽しんだりしている。昨年は京都・奈良・大阪を訪れ、今年は彦根城、比叡山延暦寺、石山寺、熊野詣などをしてきたところである。楽しみながら働き、地域貢献することが生きがいになるうちは続けていきたいと思っている。

(平成三十一年三月退職)



ハーモニカと私



大曲仙北

武藤 幸生

戦後間もなく、父は由利郡内の勤務を終え、仙北に戻ったが、そこは私の生まれ故郷の笹子に似て雪六尺の玉川であった。

この小・中で学んだが、ハーモニカとの出会いは、小・中合同学芸会の全校合奏だった。ハーモニカの音色はやさしく、ポケットにいつもしのばせていることができる。その上、自分の歌える曲はすぐ吹けるようになることも夢中にさせてくれた。

このハーモニカを四十年ぶりに手にしたのは、初めて小学校に勤務した時で、明るく元気な子どもたちに、もっと優しい心を育みたいと思ったからだ。集会で唱歌を二、三曲吹いてみたが、めずらしさもあつてか静かに聴いてくれた。そのうち、リズムのいい曲では、手拍子を打ったり、身体を動かしたり、中には立ち上がって踊る子もいて、ほっと胸をなでおろしたものだ。

調子に乗って中学校勤務になった時も、演奏を試みた。静かに聴いてくれたが、生徒会発会式で「ビリーブ」を吹いたら、後で二、三人の女子生徒が訪れ、「感動しました。涙が出ました。」と言ってくれた。私も涙した。退職後もこれまでの縁で、生涯学習に招かれたり小・中の集会に呼んでいただいたりし

て続いていた。地域の交流会の歌の伴奏は十数年続いたが、新型コロナの流行などで、ここ数年跡断えている。初任校の教え子たちや、前任校の同僚とは、年に一度なんとか逢うことができていたが、一日も早い感染症の収束を願っている。まだまだこのハーモニカを握っていたいと欲張っている私である。

(平成十四年三月退職)

出がらしにだから



横手市

佐藤 克己

「出がらしだからこそできる役目があるのでは」

NHKの朝ドラ『虎に翼』に登場する初代最高裁長官、星朋彦の言葉です。この「出がらし」という言葉が妙に気に入って、いろいろなところで使っています。

退職したらあれやってこれやってと思いを巡らせていたものの、実際は二週間もすると家の片付けも終わって、仕切り直しをする事になりました。まずは自動車教習所に通って大型免許の取得です。一ヶ月半ほどかかりました。そのあとは、ハローワークに。退職校長の就活は厳しく、約三ヶ月後、やっと社会福祉施設に就職でした。第二の人生。よく仕事をしていたものの、何となくしっくりこな

いような感じでした。そんな折に声をかけていただき、退職後一年を経て、現在は市教委の学校教育指導員として働いています。

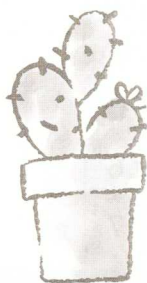
主人公寅子の恩師でもある法律学者穂高先生に星元長官は語りかけます。

「自分は人生をがんばり尽くした。時代も変わった。役目も終えた。いわば出がらしだ。でもね、先生。出がらしにだからできる役目や若いやつらに残せることがあるんじゃないかな？」

普通「出がらしのような人」は、味気のない人、つまらない人といったネガティブなイメージを指すようですが、ドラマの中では少し違います。出がらしでしか務まらない役目や役割ができる人という、もっとポジティブな印象です。

時々、若い先生方の授業を参観する機会があります。味も香りも上等の出がらしという風にはいきませんが、「そのときの自分にかできない役目みたいなものは、確かにあるのかも」、そんな思いでいます。

(令和四年三月退職)



ボランティアを楽しむ



湯沢雄勝

滑 川 道 彦

退職してから早10年の歳月が流れました。その間、萌友会の事務局長を8年間務めました。そろそろバトンを渡す時期が近づいてきましたので、これまで会員に依頼していた原稿を、最後は自分が書くことにしました。

振り返ってみれば、私が退職した平成26年は国民文化祭が秋田で開催された年でした。湯沢に集う音楽の祭典「ふるさと湯沢に息づく久遠の響き」をテーマに伝統の響き酒屋歌のステージ創りをしました。その後は、市の社会教育指導員として生涯学習奨励員の会、日本語教室の事務兼指導の手伝い、音楽のまち「ゆざわ」の事務局などにも携わりました。それらを終えた後しばらくは自由な時間を持つことができましたが、なんとなく落ち着かない日々でしたのでボランティアをすることにしました。タイミングよく小学校のスクールバンドのお手伝いのお話があったので引き受けることにしました。私は退職するまで一般の吹奏楽団にお世話になっていたもので、好きなことのボランティアは楽しいものでした。おかげで、子どもたちと接することで気持ちが若返り、生活にも張りが生まれました。また、スキー教室のボランティアもありました。自分では出かけるのが億劫ですが、スキー教室は日時が決められているので

おめでとうございます

(順不同・敬称略)

祝 叙 勲

氏 名	現 住 所	功 労	種 類	受 章 日
佐々木 邦夫	北秋田市米内沢	高齢者叙勲	瑞宝 双光章	6・7・1
佐藤 俊司	大館市字桜町南	高齢者叙勲	瑞宝 双光章	6・8・1
出川 長五郎	北秋田市綴子	高齢者叙勲	瑞宝 双光章	6・11・1
北林 强	北秋田市米内沢	教育功労	瑞宝 小綬章	6・11・3
高橋 秀一	大館市南神明町	教育功労	瑞宝 双光章	6・11・3
佐藤 俊雄	大館市字金坂	高齢者叙勲	瑞宝 小綬章	7・2・1
田村 昭夫	能代市臈沢	高齢者叙勲	瑞宝 双光章	6・11・1
天野 実	男鹿市脇本脇本	教育功労	瑞宝 双光章	6・11・3
秋元 英一	秋田市千秋北の丸	高齢者叙勲	瑞宝 双光章	7・2・1
小川 博	秋田市榎山	高齢者叙勲	瑞宝 双光章	7・3・1
伊藤 清一	大仙市角間川町	高齢者叙勲	瑞宝 双光章	6・10・1

体がその方向を向きます。おかげで年数回のスキーを楽しむ助けになりました。

そして10年目、現在は中学校の文化部を地域展開するためのコーディネーターをしています。退職しても、学校とは離れずに様々な人との出会いを楽しんでいます。最近、この仕事が終わったら少し旅をしたいと思い、計画を進めているところです。

(平成二十六年三月退職)

【あとがき】

今冬は、県内で観測史上最大の記録的大雪となった地域もありましたが、ようやく春の訪れを感じられるようになりました。さて、各地区の郡市だよりでは、退職校長会結成五十周年を迎えて行った記念事業や、現職校長会との教育懇談会、工夫を凝らした研修等の様子が報告され、それぞれ充実した一年を送ったことが分かります。また、肩肘張らずに生きていく幸せを感じられる会員寄稿等、お忙しいところご執筆くださった皆様に感謝申し上げます。